

## 日本生殖看護学会ニュースレター No.12

### Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

## 日本生殖看護学会の幕開け

日本生殖看護学会理事長 森 明 子



2006年9月3日、日本不妊看護学会の4度目の総会において、「日本生殖看護学会」(英文名は Japanese Society of Fertility Nursing)に名称変更することが承認されました。名称変更の目的は三つありました。一つは、「不妊」という言葉の響きに対する当事者や社会からの抵抗感への配慮。二つ目は、不妊看護の看護専門領域としての確立とともに「生殖」をめぐる、他の看護専門領域とのコラボレーションが必要な時代に入り、不妊看護の概念が拡大していること。三つ目は、学会設立以来、築いてきた土台の上に新たな決意のもと、さらに本学会を発展させていくことへの意思表示です。けれども名称変更によって、会則に謳われている「目的」が変わることはありません。

本学会の設立以降、日本の生殖不妊医療をとりまく状況にはどのような変化がみられたのでしょうか。特定不妊治療費助成制度の開始と拡大、遺伝子組み換え卵胞刺激ホルモンの認可、再生医療技術によってES細胞や配偶子を作る研究の推進、夫の死後凍結精子を用いた生殖補助医療と死後認知に対する法的・倫理的・社会的問題の顕在化など、先端生殖技術はますます市民の間に浸透しています。一方、皇室典範の改正問題など、性別をめぐる社会的な「差」とは何かをあらためて考えさせられることもありました。

リプロダクティブ・ヘルスをめぐる問題は、いつも、個人・カップルの私的で繊細なものであると同時に第三者・公が入り込む危うさをもっています。不妊はリプロダクティブ・ヘルスをめぐる代表的な問題の一つです。治療を受ける不妊カップルは皆、治療の成果一妊娠、出産、そして子どもの誕生を望んでいます。しかし、妊娠は女性だけに起こる生物

現象であり、女性自身さえ、どれほど望もうとも、意思によってもコントロールは効きません。子どもは常に出生に対する意思をもって生まれてくることはありません。だから、治療というプロセスにおいては、女性や子どもの健康を守ることはもちろん、女性の意思の尊重、子どもの身分の保障が大切なのです。医療者とともに看護師は限りなく私的な部分に近づき寄り添った支援できる可能性をもつと同時に第三者として支配してしまう可能性もあることを自覚しなければなりません。利害の相克に身をさらすことになるときもあるでしょう。その上でなお、女性やカップルが安心して医療を受けられるための、同時に生まれてくる子どもの擁護者でありたいと思います。

より高度な専門的知識と技術をもち、誠実さと思慮深さといった人間性を兼ね備え、生殖医療チーム、社会の要請に応えられる人材の輩出が今後ますます求められます。本学会に課せられた役割と責任は重いのです。

### 目 次

- \* 日本生殖看護学会の幕開け ..... 1
- \* 新理事の紹介 ..... 2
- \* 平成18年度事業計画ならびに予算案 ..... 3
- \* 平成18年度研究助成を受けて ..... 4
- \* 第4回日本不妊看護学会学術集会報告 ..... 5
- \* 学術集会に参加して ..... 5
- \* 平成18年度日本不妊看護学会 総会報告 ..... 6
- \* 事務局からのお知らせ・編集後記 ..... 8

## ■ 新理事の紹介

### 編集委員



村本 淳子  
(副理事長)

生殖看護のさらなる発展を願って、ますます研究の質が高く、また投稿数も多い学会誌となるよう努力していきたいと思ひます。多くの論文投稿をお待ちしています。

### 教育推進委員



森 恵美

教育推進委員会の森(千葉大学看護学部)です。第4回セミナーについてご意見を賜りありがとうございます。不妊看護に関するセミナー等を通じて実践的、学術的交流もしていきましょう。

### 広報委員



野澤 美江子

二期目に入りました。今年度からは広報委員です。目指せ、新規会員増員ノを旗揚げし、学会のPR活動と会員の皆様楽しんでいただける情報の発信に努めていきたいと思ひます。



塩沢 直美

転居・転職し看護師不足の業務を不妊看護ができる職場にするのが私の目標です。時間と能力のない私に広報担当という大役が務まるかと心配ですが宜しく御指導ください。

### 実践開発委員



福田 貴美子

2007年には福岡で開催される学術集会の会長という大役を仰せ付けております。

無事に開催できますよう準備を始めたいと思ひます。皆様のご協力、どうぞ宜しくお願ひ致します。



小川 さゆり

皆様、こんにちは。実践開発委員会担当となりました。

この委員会は会員皆様の日常・臨床での相談を受け、解決法と一緒に考える委員会です。個人情報・プライバシーを守り、相談して下さった方の背景にあった対応が出来るように、委員会のメンバーと一緒に努力していきます。日常

業務では妊婦健診や妊産婦相談を主に担当していますが、高度生殖医療治療後の妊婦さんも多く、多胎の妊婦さんや様々な合併症を持つ妊婦さんとの関わりを大切にしています。今後も皆様と協働して活動していけるよう、頑張ります。

### 会計



清水 清美

このたび会計を担当することになりました。微力ではございますが、皆様の貴重な学会費が正当に使われるよう、公平性、透明性をモットーに会計処理をしてゆきたいと思ひます。

### 総務



有森 直子

引き続き総務を担当します。チーム医療としての不妊ケアの具現化にむけ関連諸団体との調整や会員のサービス充実に向けた学会運営および調整の役割を果たしたいと思ひます。

## 監 査



遠藤 俊子

「生殖」が人間の生きる上で大事な局面として語られる社会づくりや、一看護分野としての発展が望まれます。新たな学会名称を機に、会員増加と拡大した活動を期待。



岸田 佐智

この度、監査の役割をさせていただくことになりました。学会員の皆様の声を積極的に取り入れ、学会がますます発展充実するよう活動をしていきたいと思っております。

## 将来検討委員会



長岡 由紀子

皆様のお役に立つような生殖看護に関する国内外の最新情報の収集と発信に努めてまいります。研究助成金も多数の応募をお待ちしております。宜しくお願い申し上げます。



# // 平成18年度事業計画ならびに予算案 //

## 事業計画

**事務局（総務）**：個人情報保護に基づいた会員管理とホームページ管理、関連団体・機関への会議出席や学会としての意見提出の実施と拡大、理事会は5回程度開催予定。

**実践開発委員会**：プライバシーを保護し、会員が有効利用できるような相談活動と活動のPRの充実、相談対応者の質の維持・向上に努める。システムの改善として、相談用メールアドレスを新たに取得予定。

**教育推進委員会**：地区勉強会、第3回・4回セミナーの開催、不妊看護認定看護師の継続教育の支援。

**広報委員会**：ニュースレターの発行（年4回）、学会紹介のリーフレットの更新、関連学会での積極的なPR活動の実施。

**編集委員会**：学術誌第4巻1号発行のための編集活動、平成19年5月発行予定。

**将来検討委員会**：研究助成の継続。助成金は特別会計費として5万円の積み立てを継続。国内外の情報収集・情報提供の実施。

**学会発展構想ワーキンググループ**：前年度に作成した4つの視点からの試案を具現化していくための取り組みを実施。

**看護連対応ワーキンググループ**：看護連の看護技術評価委員会・総会への出席、学会として取り組む診療報酬に関連する看護技術の検討。

## 平成18年度収支予算案

### 収入の部

科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	1,440,000	@6000×240名
繰越金		589,965	
収入合計	収入合計W	2,029,965	

## 支出の部

科目	小科目	予算額	備 考
会議費		【325,000】	
	理事会会議費	290,000	理事交通費片道支給
	総会費	35,000	
事業費		【882,500】	
	広報委員会	250,000	ニュースレター年4回発行、リーフレット作成
	教育推進委員会	100,000	
	実践開発委員会	10,000	相談活動関係通信費
	編集委員会	372,500	
	将来検討委員会	50,000	研究助成金積立金
	学術集会補助費	100,000	
事務費		【310,000】	
	人件費	230,000	アルバイト（PC入力・HP管理）
	通信費	30,000	
	雑費	50,000	
団体登録料		【100,000】	
		80,000	日本看護系学会協議会
		20,000	看保連
予備費等		412,465	
支出合計(B)		2,029,965	
次年度繰り越し金(C) = (A) - (B)		0	

## 平成18年度研究助成を受けて 研究課題「不妊治療患者が考える自己注射の有用性について」

国際医療福祉大学 清水清美

研究助成の採択ありがとうございました。

不妊治療を受ける当事者のQOLを高めるということも私たち不妊看護者の役割であると考えます。諸外国ではこのような治療負担の軽減を図るべく、ゴナドトロピン製剤の自己注射が一般的になっています。しかし、日本では副作用や医療事故が懸念され認可されていません。実際のところ治療を受ける女性ほどのように思っているのか？ 当事者の声を直接、あるいは数値的に調査した研究はほとんどありません。まずは、不妊治療を実施している（していた）女性が考える、自己注射に対するニーズや要望について明らかにすることを目的としました。

本調査から、女性たちが本当に自己注射を望んでいることが明らかになりましたら、自己注射実現に向けて行政に掛け合ったり、安全な自己注射実施のためのマニユ

アルを作成することも考えています。

助成金は研究をすべて網羅できる金額ではありませんが、普段から気になっていた現状調査を実現するきっかけになりました。やはり研究のためにお金は少しでもあるほうがよいです。現場にいる看護師の方でこのテーマに興味のある方、一緒にやりませんか？ 研究協力者として名乗り出ただけのとうれしいです。

また、現場ではもっとこんなことも問題だよノと考えたり、気づいたり、悩んでいる方、来年はそのテーマを研究してみたいかでしょうか？ 研究助成申請書の書類にうんざりしている方、本学会の教育委員会では研究計画書の書き方、研究の方法に関する研修が予定されています。ぜひ出席をお勧めします。

## 第4回日本不妊看護学会学術集会報告 社会にむけて発信しよう ～生殖医療の現場とサポーター～

第4回学術集会長 遠藤 俊子



9月3日の秋晴れの一日を山梨県中央市下河東にあります山梨大学医学部キャンパスまでお出かけいただきました皆様にもまず感謝申し上げます。昨年までの土曜日開催では、実践者の方々が参加しにくいというご意見を元に、今年は日曜日に開催いたしました。

曜日を変更したことで、このように辺鄙な地での開催にも関わらず128名の皆様にご参加いただけ、とりわけ看護現場の皆様と利用者の皆様にご参加いただいたことに学会事務局としては、嬉しく思っております。

本集会のコンセプトは「利用者主体の医療」といたしました。非常に忙しい現場は、とすると業務の効率性から、一人一人の利用者の方々にゆったりと時間を取れないジレンマを常に持っています。また、自分の価値観が揺さぶられる利用者を苦手とする経験も数多く味わっていることでしょう。不妊相談あるいは医療を受けられる方々の希望は、「自分の気持ちをわかって欲しい、自分が欲しい情報提供をして……」と、それぞれの方が希望される相談や治療は当然です。

では、どのようにしたら個々の利用者に応じたオーダーメイドのケアが可能になるのか。不妊医療に関わる様々な職種の専門性の組み合わせと数、利用者との相互作用が重要になってきます。どのくらいの人数が必要で、どのような役割を持つのか…… 実はこれは一概に言えないでしょう。施設の規模や利用者の数、どのような職種で構成されているのか等々、そこに勤務している皆様や、利用者も巻き込んで進めていったらどうでしょうか。そのような演題が数多く出されておりました。

最初の一步を、看護職の働きかけで変化を起こすことは可能と考えています。不妊看護認定看護師の力が発揮されることを期待しています。日本看護協会では、不妊看護認定看護師制度を誕生させその後4年が経過しており、現在52名の認定看護師が活躍しております。全国にARTを行う医療機関は600を超えていますし、相談機関も92箇所もあります。その数に比較したら、その数の少なさにはため息がでます。しかし、まず彼女たちの活躍から上げていきたいと思えます。そのためにも、この制度の普及や教育の仕組み、あり方の改善にも参加しましょう。

第4回日本不妊看護学会学術集会は、名称としては最後の学会になりました。「日本生殖看護学会」として新たな名称にふさわしい学会に発展することを願いながら、生殖医療を担う同僚と利用者グループの皆様にもエンパワーされながら、看護の役割を果たしていきたいと願っています。

## 「第4回日本不妊看護学会学術集会」に参加して

山梨医科大学医学部附属病院 両角 未央

今回の不妊看護学会では、社会に向けて発信しよう～生殖医療の現場とサポーター～をテーマに様々な講演や研究報告があり、改めて現在不妊看護の需要が高くなっていること又必要性を実感することができました。認定看護師さんからの報告や現場からの声を聞き、医療者側からは不妊カウンセリングのアピールの難しさや、一般社会の不妊への無理解など私自身も不妊看護に携わる者

として同じような悩みやジレンマを抱えており共感することができました。これらの問題を打破するためには、今以上不妊看護の専門性や必要性の社会へのアプローチ、それに伴い知識の向上が求められており、不妊看護に携わる者としてさらなる自己研鑽が必要だと感じました。また、このような学会等を通じさらなる不妊看護の今後の飛躍を期待しています。

## 第4回日本不妊看護学会 学術集会に参加して

国立病院機構岡山医療センター 原田 さゆり

今回、学術集会が開催された山梨は、清々しい空気の中、高い深緑の山々が遠くに並び、甲府駅に降り立った時、なんて気持ちのいい街だろうと感じました。学会では自分がこれまで取り組んできた研究や、臨床での悩みに関連する発表内容が多く、先生方の講演や発表を興味深く聴かせていただきました。発表や質疑応答を通して、わかりやすい情報の提供や不妊専門相談センターの質的な機能の向上などまだまだ課題は多くあること、不妊の悩みに寄り添って看護していくことの難しさを改めて感じました。しかし、不妊看護認定看護師の方々を取り組

みなどの活動報告から、適時のカウンセリングや不妊治療中から不妊治療後の妊産婦さんに対する看護、職員への啓蒙活動など少しずつ実現可能な看護活動の糸口が見つけれられたように思いました。参加した皆様と日々直面する悩みを共有でき、現場サポーターとしての「元氣」を充電することができました。日々進歩する不妊治療技術の勉強や自己研鑽などまた忙しい日々が続きますが、遠藤先生が言われたように「春風のような」やさしさといわりの気持ちをもって患者様と向き合っていけたらと思います。



講演が好評だった 宮本まさ子先生



### 平成18年日本不妊看護学会 総会報告

日 時：平成18年9月3日(日) 12:45～13:15  
場 所：山梨大学医学部 臨床大講堂  
出 席：42名 委任状98通(本学会則第16条により総会成立)

総合司会：有森理事  
議 長：遠藤理事

#### 〈報告事項〉

#### 1. 平成17年度事業報告

##### 1) 理事会報告(森理事長)

17年度理事会開催は8回(うち書面3回)。理事監事選挙の実施と新規事業として研究助成を開始した。

##### 2) 事務局(総務)報告

平成18年8月15日現在の会員数245名。主な活動は会員管理、学会運営に関連する業務、関係団体・機関への会議出席、ホームページの運営・管理。

##### 3) 常任委員会報告

##### 実践開発委員会(福田理事)

不妊看護に携わる看護職者に対するEメール相談、相談活動に関するプライバシー保護や相談体制の再検討。

##### 教育推進委員会(柴田理事)

地区勉強会開催3回(東海、関西、九州)、第3回不妊看護実践セミナーの企画(18年10月予定；産路加看護大学とのCOE共催)、不妊看護

認定看護師の活動の推進と支援。

#### 広報委員会（遠藤理事）

ニュースレター発行（年4回、18年6月末現在で約230部発送）とHPへの掲載、学会紹介リーフレットの配布、関連学会でのPR活動。

#### 編集委員会（森恵美理事）

日本不妊看護学会誌（Journal of Japanese Society of Infertility Nursing）第3巻第1号発行のための編集活動。

#### 将来検討委員会（野澤理事 代理森理事長）

国内外の不妊看護関連の情報収集と情報提供。研究助成の内規等を作成し公募を開始。申請の審査は第7回理事会で実施。

#### 4) 特別委員会報告

第5回理事会で、2つの特別委員会の設置が承認され、活動開始した。

#### 学会発展構想ワーキンググループ（森理事長）

【財務】、【顧客】、【内部プロセス】【革新と成長】の4つの視点から試案を作成し、活動を開始した。主な内容は、会員数の増強、学術集会やセミナーの充実、患者団体との協力関係の維持、組織強化、研究助成事業の推進、国際交流の維持・促進等。

#### 看保連対応ワーキンググループ（有森理事）

2005年7月発足の看護系学会社会保険連合（看保連）の看護技術評価委員会に参加し、動向を把握すると同時に、医療技術評価として2つの看護技術を提出した。

#### 2. 平成18年研究助成申請結果（森理事長）

申請件数1件、第7回理事会で審議し、清水清美氏の「不妊治療患者が考える自己注射の有用性について」が採択された。

#### 3. 日本不妊看護学会第2期理事・監事選挙結果報告（森理事長）

選挙人数103名、投票数103票、辞退者6名と繰り上げ当選3名の調整を行い、12名の当選者を確定。

以上の報告に関して会員から拍手をもって承認された。

#### 〈審議事項〉

#### 1. 平成17年度収支決算報告及び会計監査報告（村本会計担当理事、此川監事）

収入の部は会費収入以外に第3回学術集会から30万円の寄付あり。会議費赤字の理由は、これまで自費としていた理事会出席時の交通費を片道のみ支給（17年総会で承認）したため。教育推進委員会はセミナーが次年度開催となったため支出はなし。事務費の人件費はPC入力やHP管理に関わる費用。団体登録料は日本看護系学会協議会と看保連への2箇所。以上の結果、次年度繰越金は589,965円。

此川監事より、収支決算に関して平成18年9月2日に決算書面及び付随する証拠に照らして監査を執行した結果、適当であった旨の報告がされた。

以上、会計からの収支決算及び会計監査に関して、会員の拍手により承認された。

#### 2. 平成18年度事業計画案（森理事長）、平成18年度収支予算案（村本理事）p.4に掲載

活動計画、予算案について拍手により承認された。

#### 3. 次期理事長・副理事長の承認（森理事長）

第8回理事会で、理事長に森明子氏、副理事長に村本淳子氏が選出された。

拍手を持って承認された。

#### 4. 「日本生殖看護学会；Japanese Society of Fertility Nursing（JSFN）」への名称変更および会則改正案（森理事長）

第7回理事会で「日本生殖看護学会」への名称変更と、それに伴う会則、附則の変更が提案された。

拍手を持って承認された。

#### 5. その他；次々期学術集會長について（森理事長）

第8回理事会で、第6回学術集會長として、野澤美江子氏（兵庫県立大学）が選出された。

拍手により承認された。

会場からの審議事項はなし。

#### 〈次期学術集會長からのあいさつ〉

福田貴美子氏より、第5回学術集會及び総会は、平成19年9月9日（日）アクロス福岡にて開催予定であること、良い学会にするために十分に準備して臨むので、ぜひ足を運んで頂きたいとの挨拶があった。

## 事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望、ご意見などがありましたらFAX (03-5550-266) もしくはE-mailで (jsin@slcn.ac.jp) お気軽にお問い合わせ下さい。
2. 住所・氏名等の変更があるかたは、速やかにご連絡下さい。
3. 知り合いの方で入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますのでお名前、ご連絡先をお知らせ下さい。
4. ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) を適宜更新していますので、どうぞご利用下さい。

## 会費の納入をお願いします



会員みなさま、今年度の会費の納入をお願いいたします。  
「平成18年度会費」は平成18年9月1日～平成19年8月31日までの諸活動に伴う会費です。

もしも不妊看護実践で行き詰ったら……

## 日本生殖看護学会が相談にのります

実践開発委員会では、会員を対象にホームページ上で相談活動を行っています。  
どうぞお気軽にご相談下さい。

## 取り扱う相談とは？

- 事例の相談
- 生殖医療の知識的なことに関する相談
- 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
- 看護する場の改善（相談室開設など）にともなう相談 等

## 相談される場合は……

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入ください。

日本不妊看護学会 (Japanese Society of Infertility Nursing: JSIN) は、  
日本生殖看護学会 (Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN) へと名称が変更になりました。

## 編集後記

金木曜の香りゆかしく、めっきり秋めいてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
広報委員はこの号をもちまして、委員の交替となります。有益な情報の発信源となりますように努めてまいりましたが、いかがでしたでしょうか？  
次号(13号)から発送は、山梨大学から兵庫県立大学となります。皆様と共に、今後も生殖看護がより発展していきますよう頑張っていきたいと思えます。3年間、ありがとうございました。  
(広報委員: 遠藤・林・小林・丸山)

## 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing  
(JSFN)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1  
聖路加看護大学内

Tel&Fax 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp

(当面このアドレスを使用)

ウェブサイト <http://jsin.umin.jp/>